

弥生（やよい） 3月



早いもので今日から3月が始まりました。学年として最後の月、3年生にとってははいよいよ卒業の時を迎えます。どんな気持ちでみんなはこの3月を迎えていますか？日本では、旧暦3月を弥生（やよい）と呼び、現在でも新暦3月の別名としても用いています。

弥生の由来は、草木がはいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月（きくさいやおひづき）」が詰まって「やよひ」となったという説が有力で、これに対する異論は特にありません。

また、3月の代表的な行事であるひな祭りの起源は、300年ごろの古代中国で起こった「上巳節」にさかのぼるといわれています。「上巳（じょうし／じょうみ）」とは旧暦3月の最初の巳の日のことでのちに行事の日付が変わらないよう、3月3日となりました。もともとは女の子のための行事ではなく、春の訪れを喜び、無病息災を願う厄払いの行事でした。それではどんなことを行っていたのでしょうか。少し紹介したいと思います。

3月初めは季節の変わり目で、災いをもたらす邪気が入りやすいと考えられていました。古代中国では、この日に水辺で穢れ（けがれ）をはらう習慣があったことから、紙や草でつくった人形（ひとがた）で自分の体をなでて穢れ（けがれ）を移し、川や海へ流したりするようになりました。よく目にする「流し雛」は、この名残です。現在のように、段を組んだり、豪華な飾りを施したりするようになったのは江戸時代に入ってからのことです。江戸初期に、京都の御所で盛大なひな祭りが催されて以降、江戸の武家社会にも広まり、庶民の間にも定着したのだそうです。雛人形は、溶け始めた雪の下から新しい命が芽吹き始める「雨水（うすい）」（2/18～3/4ごろ）に飾ると良縁に恵まれ、早く片付けないと嫁入りが遅くなると言い伝えられ、「啓蟄（けいちつ）」（3/5～19ごろ）には片付けます。当日は彩り華やかなちらし寿司や蛤（はまぐり）のお吸いもの、白酒や雛あられなどをいただきます。菱（ひし）の形に見立てた菱餅には、「雪の下から新芽が芽吹き、雪の上では桃の花が咲く」という意味が込められ、緑・白・赤の3色のものが一般的ですが、2色や5色のものもあります。

さあ！3月。**締めくくりというよりもはいよいよ草木が生い茂る勢いのまま**、新しい年度に向けてスタートをしていきましょう。